第 50 回技術士全国大会（札幌・北海道）を終えて

（株）和コンサルタント
菊池　昭宏
KIKUCHI Akihiro
（建 設 部 門）

1．スタート

10 月 4 日(金)、曇天のなか、ＪＲ徳島駅を 7:00 発の阿波 EXP 神戸号で出発して、9 時 30 分過ぎに神戸空港に到着。神戸空港からは 11 時発の ANA4819 便にて、一路新千歳空港へ。千歳空港に着いたのは 13 時過ぎ…やはり雨だ(^^;

今回は、初めて“ANA アプリ”なるものでオンラインチェックインを試してみたが、便出発の 24 時間前からしか、搭乗手続きと搭乗券発行ができないサービスだったので、実際に上手くいくのかヒヤヒヤしていた。ちなみに JAL では予約手続き完了後に“QR コード”付きの PDF をダウンロードできたので安心だったのだが…

写真-1 ANA アプリ予約

新千歳空港で手荷物を受け取っていると、井形副会長から「今、空港内のお店で昼食を取ってます」との連絡が入り、合流した後、互いの時間をつぶしてから？一路すすきの駅へ。すすきの駅までは“快速エアポート”に乗り、札幌駅で“札幌市営南北線”に乗り換えて約 50 分で到着。だんだん雨脚が強くなってきたので、駅周辺の散策はしないで、宿泊するホテルに直行した。

写真-2 夜明け前の吉野川

写真-3 神戸空港

2．ウェルカムパーティー

18:00（17:15～入場受付開始）から開催されるウェルカムパーティーに参加するため、土

砂降りの雨の中、“サッポロビール園”に向かってひたすら歩く。開宴を待ちわびていた参加者は、至る所で“乾杯”の練習を始め出した。四国本部の連中も例に漏れず…

写真-4 ポプラ館

写真-5 会場の様子

3．分科会

翌、10 月 5 日(土)は、ひと足早い秋を感じるために、大会会場近くの“中島公園”を散策してから、大会会場である「札幌パークホテル」へ

写真-6 中島公園

写真-7 札幌パークホテル

“共創の大地・北海道から始まる技術士の挑戦～ミライの豊かさを実現するために～”を大会テーマに掲げて、9:30～12:15 まで、以下の 4 つの分科会で講演会や意見交換会が開催された。

【第 1 分科会（技術者倫理)】技術者よ、大志を抱け～過去から現在そして未来へ～考える
【第 2 分科会（防災】北海道から発信する大規模災害の備え
【第 3 分科会（脱炭素)】ゼロカーボンの実現に貢献する北海道の取り組み
【第 4 分科会（ミライの技術者)】～キラキラ☆彡技術士まし×2 大作戦！～

私は主に「第 2 分科会」に参加していたので、その様子をお届けする。

写真-8 配布資料

写真-9 会場の様子

写真-10 講演 1 の様子

写真-11 講演 2 の様子

講演 1 では「巨大地震による津波災害に備える」と題して、北海道大学大学院理学研究院の谷岡特任教授に、講演 2 では「積雪寒冷地・北海道における近年の冬期災害」と題して、北見工業大学工学部社会環境系の白川准教授にご講演いただいた。

講演 1 では、「2011 年東日本大震災を受けて、緊急に国・都道府県・自治体での巨大地震による津波被害への備えが強化され、現在ではそれ以前と比べて津波災害への備えが大きく改善されている。そのような流れの中、大学での災害軽減に資する理学・工学的研究も大きく進展している。世界唯一の稠密観測網のデータ（海底地震津波観測網：S-net）を用いた津波浸水予測技術の高度化。更には、精度の良い津波浸水予測結果とビッグデータを組み合わせた詳細な災害発生予測の高度化。これは、リアルタイムの人流データからどこでどの程度の人が被災しているのかを予測できる技術である。次に、最新の AI および様々な情報が重なった場合の最適化問題を高速で計算する技術の開発である。これにより、自治体の人的リソース・病院等のリソース・救急車等の搬送リソースの配置・道路状況・気象情報などから、人的被害を最小限にするためには、誰がどう行動する事が最適なのかをコンピューターが即時に計算して示してくれる。最後に津波には大学・官庁・民間企業・住民が協働して災害の軽減に対応する必要がある」といった内容であった。

また、講演 2 では、「近年、北海道で発生した冬期災害を分析すると、大規模な複合災害

になりかけた事例がいくつか存在する。その一つが 2022 年 12 月に北海道オホーツク海沿岸で発生した大規模停電である。この事例は、発達した低気圧の影響による大雪が原因であり、その雪質はこの地域では異例の湿雪であった。この雪が送電鉄塔へ多量に着雪し、雪の重さで倒壊に至った。この影響により、紋別市をはじめ周辺地域では大規模な停電が発生し、市民生活に大きな影響を及ぼした。冬期の停電は命に関わる。当時の気温は平年よりも大幅に高い 0℃前後で推移しており、幸いにも低温による死者は出なかったが、仮に気温がこれより低かった場合は、より厳しい状況になっていた可能性がある。

このような冬期特有の雪氷環境が、地震や津波、火山噴火などの自然災害と重なった場合はより被害が深刻となる」と、また、本年 1 月 1 日に発生した“令和 6 年能登半島地震の例を挙げられ、「厳冬期に発生したこの地震は、雪氷環境特有の問題から、避難自体が困難な状況になる」と述べられていた。

4. 歓迎演奏・大会式典・分科会報告・記念講演

分科会の後は、昼食を挟んで「歓迎演奏～大会式典～分科会報告～記念講演」が開催された。大会式典は、金大会委員長（日本技術士会北海道本部長）の歓迎の挨拶で始まり、黒崎日本技術士会会長の式辞～来賓の祝辞へと続いた。

写真-12 歓迎演奏

写真-13 金大会委員長の歓迎挨拶

写真-14 黒崎会長の式辞

以下に、大会委員長ならびに日本技術士会会長の挨拶文から印象に残っている部分を抜粋して紹介する。

『北海道では、既にピーク時からの人口が 10%減少し、高齢化・人口減少による広域分散型社会が進んでいる現状で、生活を支える物流のあり方等にも変化が見られます。さらに、温暖化の影響が顕著に表れる地域であるため、一次産業等への影響も大きく、自然災害の激甚化がますます顕在化していく恐れがあります。

人口減少が 10 年先を行く北海道で、全国に先駆けてこれらの問題に対処すべく、IT 技術の社会実装の推進、脱炭素による温室効果ガス排出削減への対策など、社会資本を再構築していくこと、また、豪雨豪雪災害の激甚化への対応や、震災発生時にいかにして一人でも多くの命を救えるか、これらは高度な技術力と高い倫理観を持った技術士が解決すべき大きな宿題のひとつでもあります』

『私たちが挑戦して実現していかなければならないミライの「豊かさ」とは何でしょうか。考えてみると、人類がこれまでに目指してきた豊かさの概念は歴史とともに変化してきています。古くは狩猟採取生活における豊かさとは、飢えないだけの獲物や食糧が十分に確保されることや、疫病や災害、動物や時には他の部族などの外的から守られることであったろうと想像されます。農耕がはじまると、生活に必要な物資を満たすことを超えた物質的欲求を充足することが豊かさの象徴となり、さらに産業革命以降は質、快適性、利便性なども豊かさの重要な要素となりました。現代では物質的な豊かさだけではなく承認欲求や自己実現欲求の充足、社会的なつながりなど多様な豊かさが求められるようになっており、さらに持続可能であることや社会全体の利益を考慮した行動であることが「豊かさ」を構成する要素ともなっています。～中略～　私たちの目標をどこに置いてこれからの技術を発展させていくのかを考えること自体が、私はテーマにある「共創の大地・北海道から始まる技術士の挑戦」そのものであると考えます』

■分科会報告

大会式典に続いて各分科会による分科会報告が行われた。ここでは、「第 3 分科会：脱炭素」および「第 4 分科会：ミライの技術者」の様子を紹介する。

写真-15 第 3 分科会報告のスクリーン

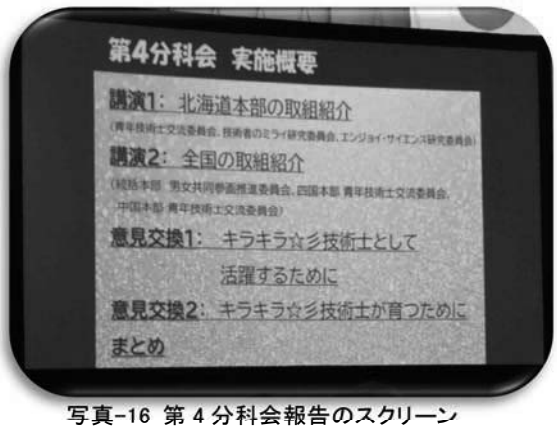

写真-16 第 4 分科会報告のスクリーン

■記念講演

分科会報告の後は、“株式会社セコマ　代表取締役会長”の丸谷智保氏による「地域に貢献する経営～地域産業エコシステム」と題した記念講演が行われた。

講演の概要は、『北海道を中心に食品製造、物流、小売までのサプライチェーンを「持つ経営」で構築し、事業活動を通じて地域に貢献する。効率的な物流網を背景に、都市部だけでなく無店舗地域への出店や地域産品の積極的な活用で、地域振興を実現している。物流の困難性、全国的にも早く進む超高齢化、人口減少マーケットでも存続し続ける経営で、“地域のこし”から“地域おこし”へとつなげ地域と共創する』といった内容であった。

写真-17 記念講演の様子

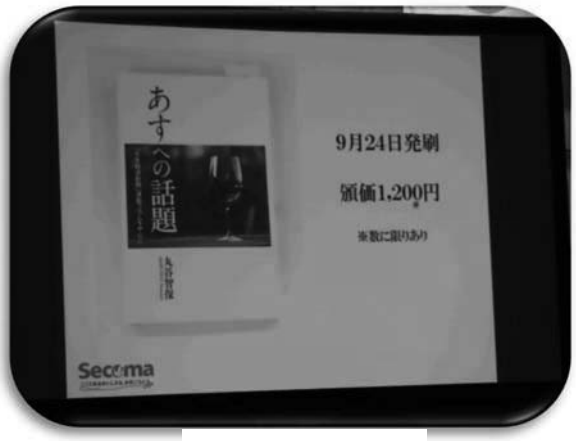

写真-18 著書購入

5. 交流パーティー

大会式典終了後は「同ホテルの地下 2 階 パークプラザ A・B・C」に場所を移して、交流パーティーの開宴。アトラクションの“平岸天神太鼓”が小気味よい太鼓の音を奏で、会場のボルテージも段々盛り上がり、北海道の地酒コーナーは、あっという間に閉店！会員同士の交流を深めながら、宴は進んで行った。最後に、次回開催地である熊本（九州本部）による大会 PR が行われ、（札幌・北海道）から（熊本・九州沖縄）へとバトンが渡ったところで、大会は名残惜しく終了した。

写真-19 交流パーティーの様子

写真-20 北海道から熊本へ

6. 眠らない街へ

前夜に引き続き、“札幌・すすきの”へ♪

写真-22 この近くで“爆発”が

写真-21 すすきの交差点のシンボル

この原稿の構成などを考えていたとき、“えっ”というニュースが飛び込んできた。「11 月 26 日午後 3 時 18 分ごろ、札幌市中央区の繁華街ススキノにあるビルで“爆発音がして窓から火が見える”と通りかかった人から消防に通報がありました。NHK が札幌市中央区に設置しているカメラからは、ビルの間から白い煙が出て消防が放水しているのが確認できます」といった内容であった。まさに我々が写真を撮っていた場所のすぐ近くである。後のニュースでは、「ガソリンに火をつけた放火事件」のようであったが、「ガソリン」といえば、36 人が死亡した 2019 年の“京都アニメーションの放火殺人事件”が記憶に新しい…

で、この写真に写っているメンバーは、上下水道部会の 3 名と、四国本部の 6 名である。この後、燻製料理と地酒を堪能しながら、オジサンたちの夜は更けていくのであった。来年の「第 51 回技術士全国大会（熊本・九州沖縄)」での再会を期して散会。

7. おわりに

寄稿文のおわりに、「第 50 回技術士全国大会（札幌・北海道）」の大会宣言を掲載して“結び”とする。

1. **先人の志を受け継ぎ、今ある課題に誠実に挑むとともに、将来世代にわたって持続可能な社会の実現に貢献します。**
2. **未来を見据えた新たな地域づくり、国づくりを目指し、脱炭素社会の構築や防災・減災の取り組みを進めます。**
3. **継続教育・技術研鑽に努めるとともに、外部への情報発信や次世代の技術者の育成、多様性を尊重した行動に積極的に取り組みます。**

以下は、おまけ（ホテルから帰りの機内まで）

写真-23 大通公園～テレビ塔

写真-24 時計台

写真-25 JR 札幌駅

写真-26 機内へ